



© WFP/Ali Jadaiah

飢餓から救う。
SAVING LIVES CHANGING LIVES
未来を救う。

今こそ 世界の結束力を 信じる。

2023年は世界中で紛争や、未曾有の大惨事、
気候危機、そして苦しみがもたらされた年でした。

それでも私は希望を捨てません。
今こそ“思いやり”と“協力”の力を信じましょう。
助け合うことで、もっとできることがあります。
彼らには今日と明日を生きる希望が必要なのです。

— 国連 WFP シンディ・マケイン事務局長

「食料支援が世界平和の源になる」
皆様の継続的なご支援に深く感謝申し上げます。



特定非営利活動法人
国際連合世界食糧計画
WFP 協会会長
安藤 宏基

2023年は2月の「トルコ・シリア地震緊急支援」をはじめ、皆様からの多大なる
善意を頂戴し、厚く御礼申し上げます。今、世界では飢餓人口約8億人に対し、
年間の支援者は1億5,200万人と支援はまだ行き届いていないという現状があり
ます。パレスチナでは10月7日に始まった激しい紛争により、ガザ地区の全人口
が飢餓に苦しむなど、世界各地で起きる紛争や気候変動などが要因で支援
のニーズが高まっています。飢餓に苦しむ人びとに確かに支援をお届けするこ
とが私たちの責務と考え、人間生存の基本である食料の必要性をさらに訴えて
まいります。引き続き、皆様からの温かいご支援を心よりお願い申し上げます。



© WFP/Alfredo Zuniga

Message	01
特集 切迫する世界での食料支援	03
Highlight 2023	07
国連 WFP の支援実績と主な活動	09
国連 WFP 協会の取り組み	17
企業・団体からのご支援について	23
ご寄付をいただいた企業・団体の皆様	28
2023年度決算報告	29
役員一覧 / 国連 WFP を応援する著名人	30

日本政府などの支援により、避難先から帰還してきたモザンビークの人びとに食料を配給している様子



紛争



気候
変動



必要額
228億
米ドル

不足分
145億
米ドル



特集 切迫する世界での食料支援

2023年に必要とされた額228億米ドルに対して、国連WFPが調達できた金額は83億米ドルにとどまり、必要額の60%を超える145億米ドルが不足するという歴史的な資金不足に陥りました。

多発する災害と紛争 資金不足はかつてない水準に



地震



支援のニーズが増え続ける中で迫られる 配給削減という厳しい選択

2022年から続くウクライナ戦争とその影響による食料・燃料価格の高騰や、スーダン、パレスチナなどで激化する紛争、リビア洪水、トルコ・シリア地震、アフガニスタン地震、気候

変動による干ばつといった自然災害などにより、世界中で食料支援の必要性・緊急性が増えています。2023年、世界では8億人近い人びとが飢餓に苦しみ、3億3,300万人が深刻な食料不安（IPC3以上）に直面。さらに4,680万人が緊急レベルの飢餓（IPC4以上）に陥っており、栄養不良で死亡する危険にさらされながら、生き残るために必死の対応を迫られました。

飢餓に直面する人びとにとって、国連WFPの食料支援は重要な命綱です。しかし国連WFPは2023年、60年という歴史の中で最大の資金不足に直面し、アフガニスタン、バングラデシュ、コンゴ民主共和国、ハイチ、ヨルダン、パレスチナ、南スーダン、ソマリア、シリアといった“飢餓のホットスポット”と呼ばれる国や地域で大幅に支援を削減せざるを得ない状況

に陥りました。支援を削ることは助けを必要とする人の数がさらに増加することにつながり、負の連鎖が一層加速する恐れがあります。

国連WFPは「食料支援が1%削減されるごとに40万人以上が飢餓の瀬戸際に追い込まれる危険性がある」と推定しており、今後、飢餓レベルが一層高まることが懸念されます。

各国における支援削減の影響

ニーズの増加と歴史的な資金不足によって
助けを求める多くの人びとが支援を受け取れず危険にさらされました。

ソマリア

干ばつに追い打ちをかけた大洪水
求める半数以下しか支援できず

[増えるニーズ]

- 2020年から2年以上続いた記録上最長の干ばつにより、人びとは飢きん寸前の状態に(人道支援により瀬戸際でしのぐ)
- 2023年10月、エルニーニョ現象の影響で大雨と洪水が発生。生計を再建中の人を含む100万人が家を追われる
- ソマリア全土で食料不安が深刻化。全人口の3分の1(660万人)以上が、危機またはそれ以上のレベルの飢餓に直面

不足資金

4億5,000万米ドル
2023年

[資金不足の影響]

- 最も食料を必要としている人びとの半分以下しか支援できず
- 気候災害に対するレジリエンス(強靱性)を構築するための長期的な投資が困難に

[国連WFPによる支援]

- ソマリア政府と協力し、アフリカ初の洪水予測型対策プログラムを開始
- 大洪水に見舞われると予測された地区で、事前の現金支援と早期の警戒メッセージを提供
- 洪水発生時に食料の配送を支援するため、主要な場所にボートを事前配置



© WFP/Arène/Abdirahman Yusuf Mohamed

コンゴ民主共和国

世界で最も食料危機が深刻な国の一つでも支援の継続が困難な状況に

[増えるニーズ]

- 複数の武装勢力が活動する東部地域を中心に紛争が繰り返され、国内避難民(IDPs)の数はおよそ530万人に
- 世界で最も深刻な食料危機に陥っている国の一つで、2,600万人が人道的危機レベルまたは急性の食料不安に直面
- 360万人以上の5歳未満の子どもと妊産婦が急性栄養不良に苦しむ

不足資金

8億4,030万米ドル
2023年

[資金不足の影響]

- 国内避難民をはじめ食料不安に陥っている390万人の支援を目標にしていたが、支援の継続と効率性の追求が困難に
- 学校給食支援や栄養支援など、子どもたちが栄養価の高い食品にアクセスするための資金も不足

[国連WFPによる支援]

- 女性や子どもなど最も立場が弱い人を中心とした530万人に食料、現金、栄養支援を含む命を救う支援を実施
- 栄養不良の子ども、妊婦、授乳中の母親、合計116万人以上に対して食料と栄養支援を提供



© WFP/Michael Casafra

アフガニスタン

経済崩壊と地震による困難の中
1,000万人への支援が打ち切りに

[増えるニーズ]

- 2021年のタリバン復権や長引く紛争、経済の崩壊、気候変動に起因する失業、現金の不足、物価の高騰などにより飢餓が拡大
- 10月に起きた大地震により村全体が崩壊し、2,400人以上が死亡
- 人口の36%にあたる1,580万人が急性食料不安に。急性栄養不良も大半の州で緊急事態の基準値を超える

不足資金

10億米ドル
2023年

[資金不足の影響]

- 食料支援の削減を余儀なくされた結果、2023年に支援を打ち切られた人の数が1,000万人に到達
- 女性が生計を立てる手段や子どもたちを養う方法が限られ、社会から追い出される可能性が上昇

[国連WFPによる支援]

- 1,900万人に栄養に富むバランスの取れた食料支援を実施
- 120万人の妊産婦と、栄養不良に苦しんでいる、またはリスクがある子どもたち150万人以上を支援
- 地震発生後3カ月の間に、被災した4つの地区の11万人に1,137トンの食料を提供



© WFP/Habib Hattayaz

ハイチ

食料へのアクセス確保と維持は
限られた資金では網渡りに等しい

[増えるニーズ]

- 武装集団による暴力、深刻な経済悪化、雨季の遅れなどによって、人口の44%(435万人)が急性食料不安に陥り、140万人が緊急レベルの飢餓に直面
- 世界で最も食料価格インフレの影響を受けている国の一つ
- 石油製品や燃料の不足が医療や衛生面に深い影響を及ぼし、物流や輸送にも制限を与えている

不足資金

1億883万米ドル
2023年

[資金不足の影響]

- 10万人への支援を削減。さらに10万人の子どもたちへの支援削減も懸念される
- ハイチ全土で支援を必要としている人びとに対して、栄養価の高い食品を含む食料へのアクセスを確保・維持することが困難な状況に

[国連WFPによる支援]

- 2023年は2,504トンの食料支援と100万食の温かい食事の提供、4,300万米ドルの現金支援を実施
- 空路と陸路による輸送網も含め、政府を支援する物流や緊急通信などを整備
- 農村道路や灌漑水路の修復、種子の配布、製粉所の設立などを通じて自立を支援



© WFP/Luc Junior Segur

日本人職員の声

ロヒンギャ人道危機から7年 支援削減により危惧される 難民キャンプと地域の未来



© WFP/Nisab Rahman
バングラデシュ事務所
本川 南海子

2017年、ミャンマー北部のラカイン州に住むロヒンギャ族が激しい迫害を逃れ、国境を越えてバングラデシュのコックスバザールに避難して7年。国連WFPはバングラデシュ政府や国際団体と協力し、人道支援活動を展開してきました。

しかし2023年、国連WFPは深刻な資金不足により、難民1人あたりの毎月の食料配給額を12米ドルから8米ドルまで削減せざるを得ませんでした。この支援削減が及ぼす影響は非常に大きく、栄養不良による子どもの発育不良、妊娠・授乳中の女性の貧血の増加や深刻化に加えて、キャンプでは食料を確保するためのお金を稼ぐこともままならず、人びとの不安と不満が高まっています。

もともとバングラデシュは失業率が高く、コックスバザールは国内でも経済基盤が弱いエリアで、地元の貧困層や住民の生活を守るためにも、難民の定住につながりかねない就労支援や高等教育などは厳しく制限されています。つまり自ら生計を立てていく手段がほとんどないのです。だからこそ支援削減は深刻な問題であり、生活の苦しさからキャンプ外や他国へ逃げようとする難民も後を絶ちません。

こうした困難な状況を改善するには、難民・地元住民の双方の生活を支援し、地域全体の安定と開発を模索することが重要だと考えています。限られた敷地を活用して家庭菜園や淡水魚を養殖し、難民キャンプ内での自助を促す取り組みもこの一例です。また、地元農家から生産物を集約し、キャンプ内の食料品店に生鮮食品を流通させる「マーケットリンケージ」を推進するなど、地域全体の持続可能な食料供給システムの構築も進めています。

近年、滞在の長期化や難民キャンプの治安悪化などの影響で難民と地元住民の間に緊張が広がっており、難民を受け入れることの難しさを強く感じています。今後も難民・住民の双方への中長期的な支援活動を通じて、地域全体の貧困緩和と、生活や経済の負担軽減に貢献していきたいです。



© WFP/Nisab Rahman



© WFP/Nisab Rahman

インタビュー全文公開中



Highlight 2023

2月

トルコ・シリア地震が発生

2月6日、トルコとシリアの国境沿いでマグニチュード7.8の地震が発生。両国合わせて5万人以上の方が亡くなり、トルコだけで330万人が家を失うなど、およそ2,200万人に大きな影響を与えました。国連WFPは地震発生から2カ月の間に、最大370万人の地震被災者に食料支援を実施。食料は調理を必要とせず、凍てつく寒さにさらされる被災者に即時の救済をもたらしました。



© Ghazwan Jabasini

2月

ウクライナ戦争勃発から1年

戦争勃発以降、1,100万人が支援を必要とする中で、国連WFPは毎月約300万人に食料や現金を支給しました(2023年3月時点)。また、食料支援を必要とする国々への大幅な供給削減の要因になった、黒海の港の封鎖に対しても国連WFPは取り組んでおり、一例として黒海の港の再開を支援し、24隻以上の穀物輸送船で数十万トンの小麦を出荷しました。



© WFP/Anastasia Honcharuk

2月

ミャンマー軍事クーデターから2年

3月

イエメン紛争から8年

3月

シリア紛争から12年

12年にわたる紛争に加えて2月の地震により、シリアの状況は深刻化。1,210万人が食料不安に、290万人が飢餓のリスクにさらされており、発育阻害や母親の栄養不良はかつてないレベルに達しています。



© WFP/Hassam Al Saleh

4月

シンディ・マケインが 国連WFPの新事務局長に

ローマを拠点とする国連三機関(「国連世界食糧計画(国連WFP)」「国連食糧農業機関(FAO)」「国際農業開発基金(IFAD)」)の米国常駐代表を務めていたシンディ・マケインが国連WFPの新事務局長に就任しました。



© WFP/Rein Skallerud

4月

スーダン紛争が勃発

4月15日の紛争勃発以降、数百万人が避難を余儀なくされ、近隣諸国に到着した難民や、国内避難民に対して国連WFPは緊急食料支援を実施しました。紛争が起こる前から人口の約3分の1が飢餓に直面しており、人道支援を標的とした攻撃が支援活動に深刻な影響を与える中、24時間体制で食料の調達と輸送に取り組むなど、緊急対応を拡大しました。



© WFP/Jacques David

日本人職員に聞く



5月

G7広島サミットの首脳に呼びかけ

スーダン、ハイチ、サヘル地域における新たな危機によって多くの人びとが飢餓に陥る中、広島で開催された主要7カ国首脳会議(G7)に合わせ、国連WFPは各国に「戦略的な資金提供の拡大」や「平和への取り組み」などを含む政治的解決策を通じて、長期化する危機に取り組むよう要請しました。

5月

サイクロン・モカが上陸

5月14日、サイクロン・モカがミャンマーとバングラデシュの沿岸部に上陸。すでに紛争や政治・経済危機により不安定だった数百万人の生活をさらに悪化させました。国連WFPは両国の被災者数万人に対して緊急食料支援を提供。またサイクロン上陸に先立ち、人びとをシェルターに避難させるための支援や緊急現金支援を行い、被害軽減に貢献しました。

7月

SOFI 報告書2023を発表

前年の飢餓人口などについて、国連WFPやFAOなどの機関が毎年発表する「世界の食料安全保障と栄養の現状」(SOFI)報告書によると、2022年は7億8,300万人が飢餓に苦しんでおり、世界人口の29.6%、約24億人が食料へのアクセスが制限されたと推定。紛争と気候変動が食料へのアクセスを減少し、飢餓を増加させていると示唆しています。

9月

リビアで大規模洪水が発生

リビア東部の港町デルナなどを直撃したハリケーン・ダニエルが引き起こした洪水は、5,000人以上の命を奪い、家屋を水没させ、数十万人の生活を破壊しました。国連WFPは現地のパートナー機関と連携し、救命支援を提供するための資源を迅速に動員。日本政府から緊急に支援された食料や、国連WFP協会を通じた日本の皆様からのご支援によって洪水に見舞われた人びとを支援しました。



© WFP/Mayara Al Ghribawy

現地からの
お礼



10月

アフガニスタン地震が発生

人口の36%にあたる1,580万人が食料不安にあえぐアフガニスタンでは、相次ぐ強い地震により状況が深刻化。10月7日にヘラート州を襲ったマグニチュード6.3の地震によって村全体が崩壊し、15万人以上が被災しました。国連WFPは3か月にわたり、被災した4地区の11万人に1,137トンの食料や現金を通じた支援を実施しました。



© WFP/Haib Haziqary

日本人職員に
聞く



10月

パレスチナでの紛争が激化

10月7日、イスラム組織ハマスがイスラエルに大規模な攻撃を仕掛けたことでパレスチナ・ガザ地区での紛争が激化。170万人が避難生活を強いられ、水、衛生、保健医療などのインフラに甚大な被害をもたらしました。国連WFPは10月7日以降、ガザ地区の住民に食料を届けましたが、その量は飢餓と栄養不良、病気の組み合わせを防ぐには十分ではなく、特に北部地域はすべての支援が足りていません。食料不安は壊滅的なレベルであり、全人口(220万人)が危機的あるいはそれ以上の深刻な飢餓に直面しました。



© WFP/Amr/Abd al Sayd

11月

ネパール地震が発生

11月3日、ネパールでマグニチュード6.4の大地震が発生。ネパールの貧困層が暮らす泥の家の多くが倒壊し、157人が死亡しました。国連WFPはネパール政府と地域のパートナーを支援し、すぐに食べられる食料6トンを被災地に発送。約1万1,000人に支援を届けました。



© WFP/Skanda Gautam

11月

COP28が開催

11月30日から開催された国連気候変動枠組条約第28回締約国会議(COP28)に国連WFPも参加し、気候危機の最前線にいる人びとを守るための行動を呼びかけました。

国連WFPは2023年 120以上の国と地域 1億5,200万人を支援 370万トンの食料を届けました。

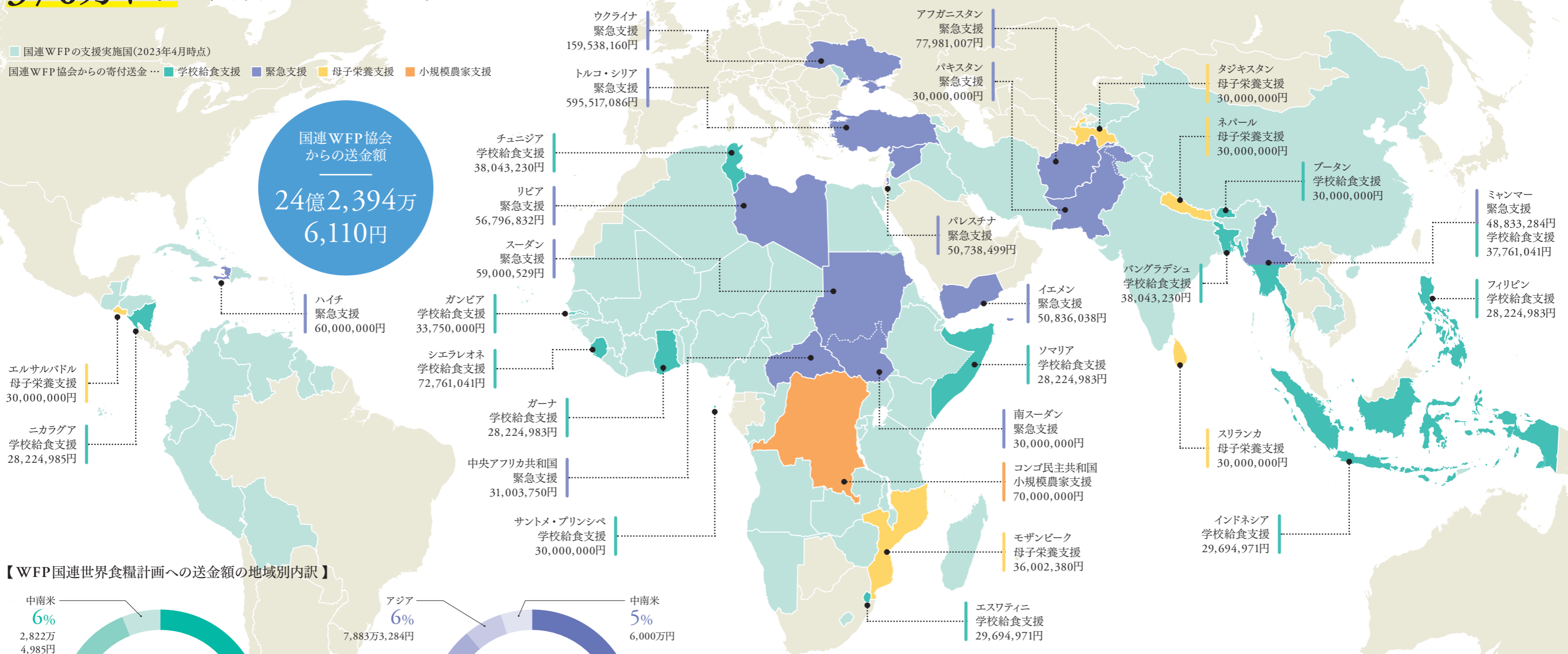
【SDGsの基盤となる目標2「飢餓をゼロに」の達成に向けて】

「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」は、「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「質の高い教育をみんなに」など、2030年までに達成すべき17の国際社会の共通目標をまとめたものです。国連WFPは、目標2「飢餓をゼロに」が他の目標達成の基盤にもなるとの考えのもと、パートナーシップを通じて活動し、全てのSDGsの達成に貢献しています。

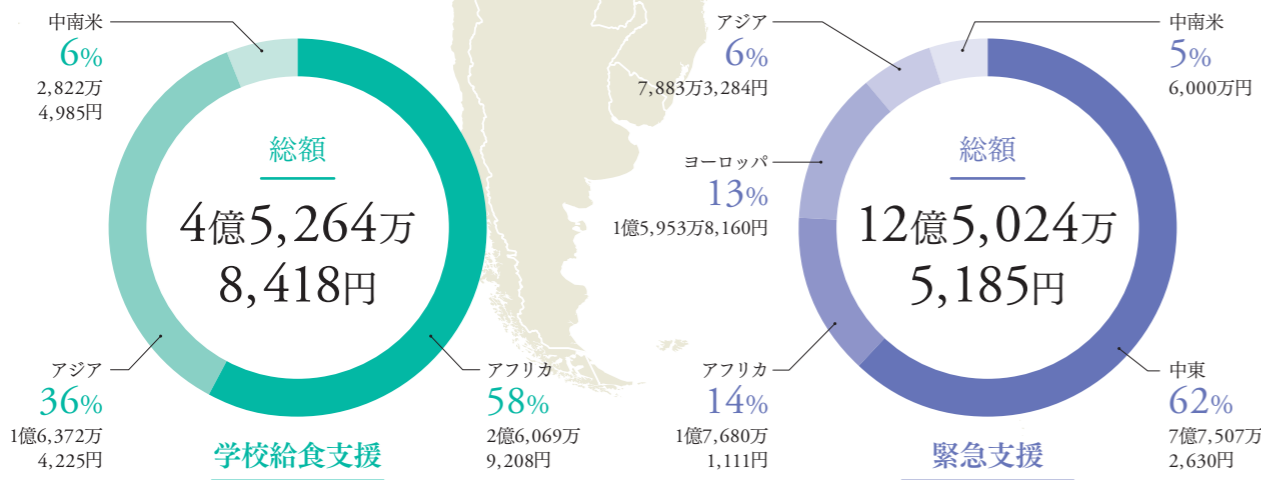


国連WFPの支援実施国(2023年4月時点)

国連WFP協会からの寄付送金… 学校給食支援 緊急支援 母子栄養支援 小規模農家支援

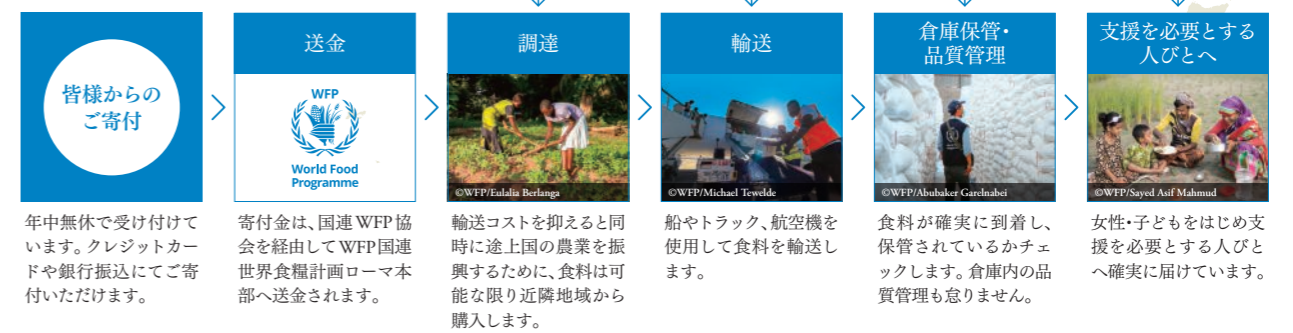


【WFP国連世界食糧計画への送金額の地域別内訳】



国連WFPが活動している世界の120以上の国と地域の中でも、緊急性の高い国・地域・プロジェクトや支援者の指定する国と地域を中心に送金しています。

【「確かに届ける」ために】



代表的な
支援活動と
実績

飢餓から救う。

SAVING LIVES

国連WFPは、紛争や自然災害などの緊急時に食料や輸送・通信を支援しています。私たちが何十年にもわたって積み上げてきた緊急事態に対処する知見は、国連WFPの行動指針に基づいた「支援計画の立案」「緊急支援への備え・対応」の両方に活かされています。

緊急支援



関連するSDGs

紛争や大災害が起きた時、まず必要とされるのが食料です。国連WFPは、いち早く被災した地域に入り、人びとに生き延びるための食料を届けています。

2023年支援実績

29の緊急支援 / 1億650万人

Corporate scale-up と Corporate attention のみ

トルコ・シリアにおける活動

地震によって多くの家屋が倒壊したトルコとシリア 届けられた温かい食事が氷点下の避難生活を支える

2023年2月6日、トルコとシリアの国境沿いでマグニチュード7.8の地震が発生。両国合わせて5万人以上の方が亡くなり、トルコだけで330万人が家を失うなど大きな被害を及ぼしました。見渡す限り家屋は破壊され、学校や商店も閉鎖。被災地は紛争により荒廃したシリア北西部を含み、世界最大の難民受け入れ国であるトルコでも大きな被害が報告されました。

2,280万人

地震の影響を受けた人

8,000万米ドル

トルコの被災者への支援強化に必要な資金
(2023/2/27時点)

1億5,000万米ドル

シリアの被災者を6カ月支援するための必要資金
(2023/2/27時点)



© WFP/Al Jazeera



© WFP/Al Jazeera

[トルコ・シリアの状況]

- 数百万人が家を失い、氷点下の中、テントや仮設避難所、廃屋などに避難
- トルコ南東部の避難民キャンプ6カ所に住む4万2,000人のシリア難民も被災
- シリアでは12年にわたる紛争による深刻な人道的危機が地震でさらに複雑化
- 物価は上がり続け、日常的な食品や暖房用の燃料などを買えない人が急増

[国連WFPの緊急支援]

- 地震発生から24時間以内に、すぐに食べられる食料や家庭用食料セット、温かいスープなどを被災した人びとに提供
 - インフラやサプライチェーンが寸断された地域に当面の家庭用食料セットを配布
 - トルコ国境経由でシリア北西部に支援トラック231台を震災後1カ月以内に派遣
- トルコとシリアの両国で最大370万人の被災者に緊急食料支援を提供

現地からの声



シリア・アレッポに暮らすムナさん

私たち家族は地震の後、モスクに避難しました。そこは凍てつくような寒さでしたが、地震が恐ろしくて家には戻れませんでした。物価の高騰により、日常的な食品

や暖房用の燃料は買えず、生活は厳しいものになっています。被災した私たちにとって、毎月の食料支援が大きな支えです。

輸送通信支援



関連するSDGs

国連WFPは、食料支援だけでなく、輸送や物流といったロジスティクスおよび情報通信の分野においても人道支援機関の中でリーダーの役割を担っています。

2023年支援実績

113の国と地域 / 41万人

物資を運んだ国 運送した人道支援従事者の数

パレスチナにおける活動

困難を極めるガザ地区への支援物資の輸送 安全で継続したアクセス網の確保が急務

2023年10月7日以降、パレスチナ・ガザ地区における紛争が激化。全人口のおよそ220万人が危機的な食料不安に陥りました。しかし複雑な国境管理と、ガザ地区内の緊張と絶望により、特に北部の人びとへの配給が不可能な状況に。このような環境下において、国連WFPはパートナー機関とともに人道支援物資の輸送や通信ネットワークの確保に取り組みました。

150万人以上

ガザ地区とヨルダン川西岸地区で支援した人

455.4トン

国連人道支援物資備蓄庫(UNHRD)より輸送した物資量

[パレスチナの状況]

- 情報通信設備を含む多くのインフラが破壊され、食料や水、医薬品、適切な医療が不足
- ガザ地区の全人口が危機的またはそれ以上のレベルの深刻な飢餓に直面
- 南部の2カ所を除くすべての国境検問所が閉鎖。何重にも実施される検問所チェックや越境後の爆撃・銃撃、略奪などにより現地での人道支援が困難な状況に

[国連WFPの輸送通信支援]

- 12月の間に677台のトラックで1万トン以上の食料をガザ地区に輸送
- 全人口220万人に食料を供給できるよう、国境とガザ地区周辺地域に食料を待機
- 信頼性の高い共有通信サービスの提供に向けて「緊急通信クラスター (ETC)」を発足
- 大規模な支援物資の滞りない輸送を可能にし、ガザ地区での飢餓悪化を防ぐため、即時停戦とすべての国境検問所の開放を要求



© WFP/Al Jazeera



© WFP/Al Jazeera

現地からの声



デビット・ピッコリング (ETCのコーディネーター)

ガザ地区では通信途絶に見舞われており、人道支援組織は誰が、いつ、何を必要としていて、どのように物資を届けられるかを把握できていません。また人道支援

者の安全確保も妨げられています。ETCは人道支援者に通信手段を提供するためにたゆまぬ努力を続けており、現在(2023年11月時点)はガザに侵入するルートを探索中です。

代表的な
支援活動と
実績

未来を救う。

CHANGING LIVES

国連WFPは緊急の「人道支援」だけでなく、持続的な「開発支援／自立支援」も担っています。途上国の地域社会と協力して女性や子どもの栄養状態の改善や強い社会づくりに取り組んでいます。

支援先の国の文化を反映した給食を提供しています



アジア(ネパール)



中南米(ニカラグア)

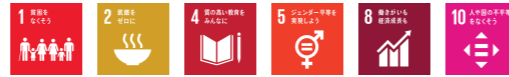


アフリカ(エチオピア)

- 学校給食の効果
- 栄養状態の改善
 - 教育普及
 - ジェンダーの平等
 - 地域社会の復興・発展

学校給食支援

関連するSDGs



学校給食支援は子どもの栄養状態を改善し、勉強への集中力を高めます。また、学校給食があることで家族が子どもを学校に通わせる動機となり、就学率の向上にもつながります。

2023年支援実績

61カ国 / 2,140万人

ネパールにおける活動

政府への移管が進むネパールの学校給食支援
農家や女性組合の収益源として地域社会に貢献

アジアで最も貧しい国の一つであるネパールでは、学校給食支援が始まって半世紀近くが経過。現在ネパール政府が事業をほぼ引き継ぎ、地方自治体が主体となって給食調理員の雇用、食材の調達、指揮監督など、学校給食運営の大部分を担っています。一方、国連WFPは地産地消を推進するため、政府や自治体への技術支援を続けています。

8地区 / 11地区中
学校給食支援が政府に移管された地区

1,956校

2023年に地産地消の学校給食を提供した学校



© WFP/SawanShrestha



ネパール国事務所 金子 彰



活動を紹介

[ネパールの状況]

- 5歳未満の子どもの4人に1人が栄養不良に苦しんでいる
- 半世紀近く前から国連WFPによる学校給食支援が続いており、現在はネパール政府への移管が進められている
- 地元の小規模農家から食材を調達する地産地消を進めている

[国連WFPの学校給食支援]

- 2023年、全国の32万人以上の子どもたちに学校給食を直接提供
- 政府と各地区に対して学校給食支援の運営主体の移行を進めており、地方自治体や学校が自ら食材を購入できるように現金を支援
- ➔ 学校給食が地元農家に安定した市場を提供し、地域経済の強化にも貢献

現地からの声



プラティバ・タマンさん(給食調理員)

新しいキッチンが整備されたおかげで、薪を使わずに調理が可能になり、温かい給食も提供できるようになりました。コンクリートの床も汚れがつきにくくて

でも仕事をしやすいです。適切な手洗いと衛生設備も確保されたため、身体の不調を訴えたり欠席したりする生徒もぐっと減りました。

チュニジアにおける活動

半数以上が昼食抜きだった状況を改善
給食が栄養にも勉強にも良い影響を与える

2014年以降、国連WFPはチュニジアで学校給食用の食堂の整備や栄養指導を実施。これまで給食がなかった小学校では、半数以上の子どもが昼食を抜いていましたが、支援によって毎日栄養たっぷりの給食を食べられるようになりました。2023年5月には国連WFPの親善大使で女優の杏さんがチュニジアを訪問し、学校給食や女性農業団体の現場を視察しました。



国連WFP親善大使の杏さん

視察の様子



ベネズエラにおける活動

給食の支援が障がいのある子どもや青少年、
成人を学校に入学させるきっかけとなる

国連WFPは障がいのある人びとのニーズや能力、今後経験するかもしれない障壁についての理解をより深めようとしており、2022年からベネズエラで障がいのある子ども、青少年、成人とその家族に対して学校給食支援を行って来ました。この支援を開始したとき、障がいのある人びとの多くは学校に通ってさえいませんでした。

1万4,855人

学校で給食を食べる障がいのある子ども、
青少年、成人とその家族



© WFP/Marianda Gonzalez



© WFP/Marianda Gonzalez

[ベネズエラの状況]

- 10世帯のうち8世帯が、1日1食を確保するために大切な財産を費やさざるを得ない
- 朝食に食べさせるものがないため、子どもを学校に行かせられない家庭もある
- 障がいのある家族がいる家庭では特に家計が圧迫する中で、薬か食べ物か、教育か食べ物かという難しい選択を強いられている

[国連WFPの学校給食支援]

- 2022年に障がいのある子ども、青少年、成人に利益をもたらす学校給食支援を導入
- 公立学校は障がいのある子ども、青少年、成人に対し、状態や年齢に応じて、教育や生活技能向上、生活保護、医療などのサービスを提供する安全な場所を提供
- ➔ 教育と食料の両方の支援を受ける障がい者の入学者数が30%増

現地からの声



ルイス・ガルシアさん(左は息子のルイス・エンリケさん)

息子には障がいがあったため、誰も彼を傷つけないように、52年間、家で介護してきました。その息子が学校給食支援のおかげで生まれて初めて学校に通っています。

息子の成長ふりと、楽しそうに学校に行く姿を見るのは、この上ない喜びです。今では、私がいなくなっても彼はうまくやれると信じています。

代表的な
支援活動と
実績

未来を救う。

CHANGING LIVES

自立支援



関連するSDGs

国連WFPは、職業訓練やインフラ整備などの対価として食料などを支給するとともに、中長期的には住民自身が災害に強い地域づくりや食料不足の解消に取り組むよう促しています。

2023年支援実績

900万人

マダガスカルにおける活動

マダガスカル政府と連携し、農村地域開発に向けて革新的な新プロジェクトを開始

国連WFPと政府は、地理的に孤立した地域でも農村開発を促進し、危機対応や強靱な生計システムを確立するためのプロジェクトを立ち上げました。地域センターに太陽光発電や持続可能な水源地を整備し、ICTを導入することで、エネルギー、水、デジタルプラットフォームを提供。総合的なコミュニティサービスを通じて農業生産を向上させます。この取り組みは国連WFP協会を通じて日本の皆様からのご支援により立ち上がりしました。

220万人
南部・南東部で2023年4月までに
高いレベルの食料不安に陥っている人

315万人
マダガスカル全体で支援を届けた人



© WFP/Isiory Andriantsoarana



© WFP/Isiory Andriantsoarana

[マダガスカルの状況]

- 世界で最も災害に弱い10カ国の一つでサイクロンや異常気象の被害を受けやすい
- 南部は特に影響を受けやすく、5歳未満の子どもの慢性的な栄養不良の割合が高い
- 南部・南東部では4月までの収穫前の期間に約220万人が高いレベルの食料不安に陥っている

[国連WFPの自立支援]

- 気候変動リスク軽減のため、農業技術の向上と生計の多様化を組み合わせた戦略を展開
- マダガスカル政府との協力で地域の緊急ニーズに対応し、草の根レベルの開発を促進
- 地域センターを整備し、女性や若者に向けて食料生産やビジネススキルの研修、デジタル講座などを提供。太陽光発電によって点滴灌漑や水耕栽培を推進し、農業生産を向上

現地からの声



アンジェリンさん(農家)

降雨量が少なく農作業が常に困難なマダガスカルにおいて、持続可能な解決策となるのがこのプロジェクトです。畑がある地域に水場が設置されれば、トウモロコシや豆

類の栽培のために雨を待つ必要がなくなります。また、石鹸工場や宝飾品店、美容院など多くの施設も作られる予定で、仕事の機会も増えると確信しています。

母子栄養支援



関連するSDGs

胎児から2歳に成長するまでに十分な栄養を摂れないと、身体や脳の発達が遅れ、その影響は生涯にわたる恐れもあります。国連WFPは妊産婦と乳幼児の栄養支援を強化しています。

2023年支援実績

57カ国 / 2,790万人

マリにおける活動

国連WFPと国連パートナーが女性たちに自立のための指導プログラムを実施

マリ中部のセグー地域では、国連WFPが妊娠中や授乳中の母親と乳幼児に向けた母子栄養支援を展開。地域の女性たちが健康的な妊娠期間を送り、出産後も適切な栄養を摂取できるよう、栄養価の高い食事や母子衛生についての指導が行われています。加えて、女性農民が土地や種子、肥料などの農業資材を平等に入手できるような支援や農牧実践の教育なども進めています。

11%
急性栄養不良に苦しむ5歳未満の子どもの割合

36万人
栄養支援を受けた妊産婦と子どもの数



© WFP/Aboucar Sidbe



© WFP/Atene/Arlette Badi

[マリの状況]

- 中部では紛争や気候変動による影響が人びとの栄養不良や食料安全保障に深刻な影響を与えている
- 半数の家庭が栄養価の高い食料を手に入れられず、飢餓問題が深刻化。特に妊産婦、乳幼児は栄養不良による健康リスクが高い

[国連WFPの自立支援]

- 地元の保健センターで栄養教育や栄養バランスの取れた食事を提供
- 地域の女性を対象にした栄養と衛生に関する指導プログラムを実施。栄養たっぷりの粥の作り方などを教え、地域の母親たちに健康的な食生活について啓発
- 農民や女性組合に土地や種子、肥料などの農業資材を提供し、農業生産性向上を支援

現地からの声



アトウマタ・ニマガさん(保健センターのボランティアリーダー)

最近まで深刻な飢えに苦しんでいましたが、国連WFPの支援によって妊娠中も出産後も栄養価の高い食事が可能になりました。娘が母乳を飲んで元気になる姿を

見ると、心が安らぎます。同じ気持ちを知ってほしくて、現在は保健センターのボランティアリーダーとして近隣の村の女性たちに健康的な食生活について教えています。

日本の皆様からのご支援を未来への希望に変え 託された深い想いととも届けたいです。

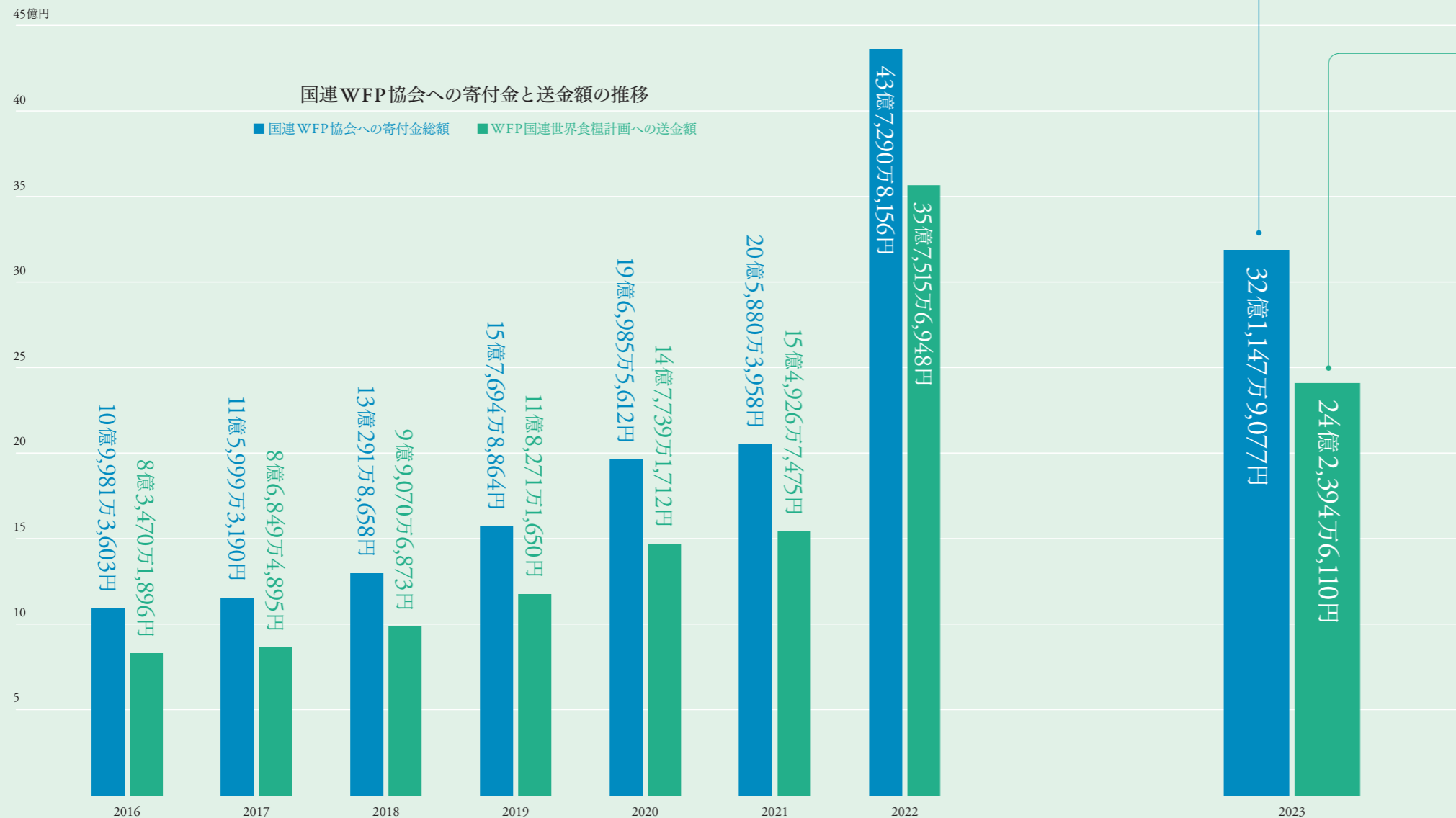
国連WFP協会とは

特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会（国連WFP協会）は、飢餓をなくすことを使命とする国連唯一の食料支援機関であるWFP国連世界食糧計画の、日本における民間の公式支援窓口です。1999年に設立され、2005年より「認定NPO法人」に認定されています。

WFP国連世界食糧計画の活動は全て、各国の政府の拠出金や、企業・団体、個人などの寄付金でまかなわれており、国連WFP協会は民間を対象とした募金活動や、企業・団体との協力関係の推進、広報活動を通してWFP国連世界食糧計画の活動を支援しています。

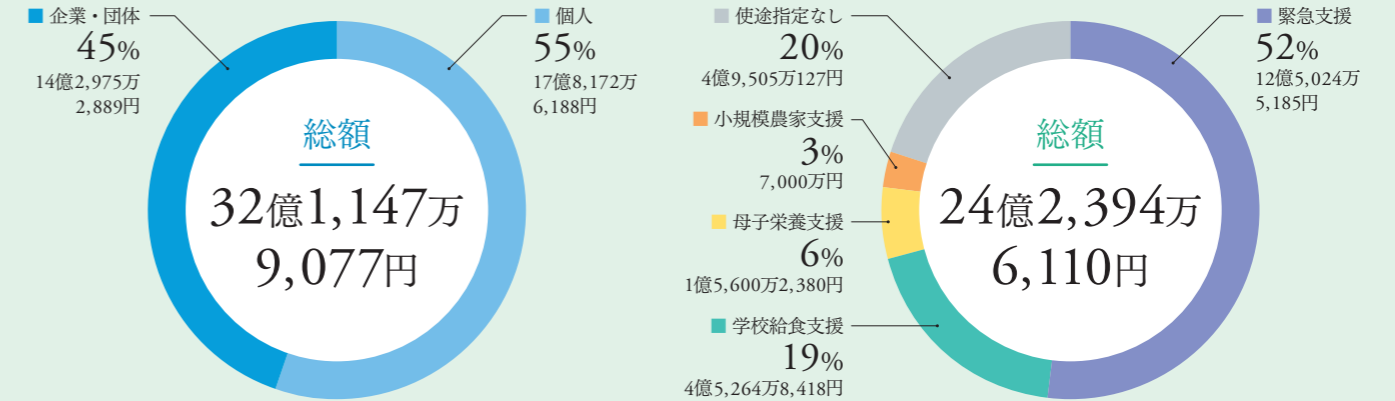
日本においては、国連機関であるWFP国連世界食糧計画日本事務所と、それを支援する認定NPO法人である国連WFP協会という2つの団体が協力して活動を行っています。

国連WFP協会は国連WFP本部との取り決めにより、寄付（個人寄付および企業・団体寄付）のうち75%以上は国連WFP本部へ送金しており、残り25%（上限）は国連WFP協会の日本国内での活動および運営管理費などに活用しています。



2023年度総括

2023年度、国連WFP協会に寄せられた企業・団体、個人の皆様からのご寄付は約32.1億円に。このうちWFP国連世界食糧計画に送金した寄付額は約24.2億円で、その中の約5億円を「誰も取り残さない」という方針のもと「使途指定なし」として送金し、国連WFPが最も資金を必要とする支援活動に活用させていただきました。



支援者の声



亡き両親にも良い報告ができます。

2015年から国連WFPを支援しています。ここ2年の間に両親を続けて亡くし、その都度お香典寄付と相続財産寄付をしました。世話好きで優しい両親に恵まれていたと思い、その分恵みの届かない人に…という想いからでした。参列者にお渡しできるお礼状を出してもらえるので、両親と縁のあった方に飢餓のことや、お香典が世界で苦しむ人びとの役に立てることを知ってもらいきっかけにもなりました。両親にも良い報告ができます。これからも支援を続けます。（前田様 60代）

世界の困っている人たちを助けたい。

学校の授業で食料危機について学ぶ機会がありました。世界中で状況が悪化していることを知り、小さな子どもたちをはじめ困っている方々を助けたいという強い思いから、毎月のお小遣いから寄付をすることに決めました。少しでもお役に立てれば嬉しいです。（匿名 10代）

福岡ソフトバンクホークス 柳田悠岐選手に感謝状を贈呈

2023年3月9日(木)

柳田選手は自身の本塁打(ホームラン)が途上国の子どもたちの学校給食支援につながる成績連動型寄付に2019年から取り組んでいます。感謝状贈呈式では、前年2022年度の寄付および過去4年間の貢献に対しての謝意と、新シーズンに向けて激励の意を伝えました。柳田選手は「自分のためだけに野球をやるのではなく、人のためにもやりたい。自分にも子どもがいますが、飢えに苦しむ子どもが少しでもいなくなればいいなと思って、国連WFPを選びました。こういう支援をしている選手がたくさんいますが、輪が広がればいいなと思いますし、野球しかできませんが少しでも世のためになればいいなと思います」と思いを語りました。



国連WFP協会 新事務局長に青木 創が就任

2023年4月1日(土)

4月1日付で国連WFP協会の事務局長に青木創が就任。紛争や災害、気候変動、価格の高騰など食料を取り巻く国際的な課題が山積する中、さらなる支援の拡大に取り組むと意気込みを語りました。



〈略歴〉

1970年東京都生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、1993年株式会社三和銀行(現三菱UFJ銀行)に入行。大企業、中堅・中小企業を問わず多岐にわたる業種・セグメント・地域の営業担当を歴任し、広く国内外の市場営業業務に携わる。ロンドンやシンガポールにてマーケティング、地域営業統括、プロジェクトマネジメントに従事。本邦にて日系企業顧客向け市場営業業務のグローバル統括も経験。



SDGsユーモアイラスト展を開催

2023年6月14日(水)~6月27日(火) 玉川高島屋S・C

2023年9月27日(水)~10月17日(火) 横浜高島屋

SDGsのゴール達成期限である2030年まであとわずか。新しい感染症の拡大、紛争や戦争の勃発、自然災害や地球温暖化などに直面する世界で、私たちは持続可能な社会を真剣に考えなければならない時を迎えています。しかしSDGsという言葉を知っていてもその内容については難解で理解が十分に広がっていないことも事実です。少しでも多くの人にSDGsの意味を知ってもらい、問題解決のために何ができるかを考えていただくために、マルチクリエイターの本田亮氏が描く子どもから大人まで分かりやすく楽しめるイラスト展を開催しました。ユニークで親しみやすい内容はSDGsを身近に感じ、アクションを起こす大切さを改めて気づかせるものとなりました。

ACジャパン広告「命懸けの行列」配信



2023年7月1日(土)~2024年6月30日(日)

本年度のテーマは「命懸けの行列」。7月から1年間、テレビ・ラジオCM、新聞、交通広告などで展開されました。人気の飲食店やスイーツを求めて行列に並んだ経験がある人もいないのでしょうか。世界で一番長い行列はなんと8億人待ち。この大行列は人気のレストランではなく、今日を生き延びるための食料を求めて命懸けで並んでいます。「多くの方に世界の飢餓問題を身近に感じてほしい」という願いを込めて制作しました。ナレーションは泉谷しげるさんが担当し、世界の現状を力強く伝え、幅広い協力を呼び掛けました。



講演やワークショップを開催



教育機関などに向けた講演やワークショップを年間70回、延べ3,694人に向けて実施しました。飢餓問題を知ることは支援への大切な一歩です。講演では世界の飢餓の状況、国連WFPの支援活動について、そして私たちに何ができるのかを一緒に考えます。講演を機に寄付活動やチャリティグッズの販売、国連WFPを紹介する動画作成や文化祭でのブース出展などのアクションにつながることもあります。また、講師として国連WFP協会の登録ボランティアも活躍しています。



外部イベントにブース出展

他団体主催のイベントにブースを出展し、パネル展示やチャリティグッズの販売などを行い、来場者に国連WFPの活動を紹介しました。

- せたがや国際メッセ 2023年2月12日(日)
主催：世田谷区、公益財団法人 せたがや文化財団(せたがや国際交流センター)
- FABEX東京2023 2023年4月12日(水)~14日(金)
主催：日本食糧新聞社
- グローバルフェスタ JAPAN2023 2023年9月30日(土)~10月1日(日)
主催：外務省、国際協力機構(JICA)、特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター(JANIC)
- ワールド・コラボ・フェスタ2023 2023年10月14日(土)~15日(日)
主催：公益財団法人 愛知県国際交流協会(AIA)、独立行政法人 国際協力機構中部センター(JICA中部)、なごや国際交流団体協議会(NIA)
- 慶應連合三田会大会 2023年10月15日(日)
主催：慶應連合三田会
- 日清オイリオ横浜磯子まつり 2023年10月28日(土)
主催：日清オイリオグループ株式会社
- ハウスファミリーウォーク神宮大会 2023年11月19日(日)
主催：一般社団法人 日本ウォーキング協会 協賛：ハウス食品グループ



グローバルフェスタJAPAN2023



WFPウォーク・ザ・ワールドを 3会場で開催

横浜会場 2023年5月14日(日)
名古屋会場 2023年5月21日(日)
大阪会場 2023年5月27日(土)



「WFPウォーク・ザ・ワールド」は、歩くことで途上国の子どもたちの支援につながるチャリティーウォークです。参加費の一部が国連WFPの学校給食支援に役立てられ、子どもたちに栄養と希望を届けます。横浜、大阪、名古屋の3会場で行われ、名所や、自然、街を楽しむコースを歩きました。



名古屋会場



大阪会場



横浜会場

ゲスト：
横浜会場 川崎宗則さん(栃木ゴールデンブレーブス)
名古屋会場 谷本歩実さん(柔道家)
小塚崇彦さん(フィギュアスケーター)
大阪会場 矢野燿大さん(前阪神タイガース監督/プロ野球解説者)

特別協賛：
横浜 dsm-firmenich
日清食品ホールディングス株式会社
株式会社ファミリーマート
名古屋 カゴメ株式会社
トヨタ自動車株式会社
日清食品ホールディングス株式会社
株式会社ファミリーマート
大阪 日清食品ホールディングス株式会社
株式会社ファミリーマート

2023年度は
参加者**6,068**人、
寄付額は
548万6,260円となり、
およそ**18万3,000**人の
子どもたちに
給食を届けることが
できました



企業の声

日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社様

当社では、2007年から会社全体の取り組みとして「WFPウォーク・ザ・ワールド」に参加しています。本イベントへの参加は、従業員のサステナビリティ推進活動への意識向上を図るとともに、所属部署や勤務場所の垣根を超えて、お揃いのオリジナルTシャツを着用し一緒に歩くことで、日頃あまり接点のない同士のコミュニケーションの一助としています。3会場とも従業員が参加し、それぞれの地域でチームワーク強化の良い機会となっています。参加した従業員からは「参加することで途上国の子どもたちに給食を届けることができうれしい」「毎年参加しているが、大勢の方が飢餓をなくすために行動していると実感できる」といった声が寄せられています。これからも当社は、「おいしさ、しあわせ創造」の企業理念の下に、途上国の子どもたちへの学校給食支援を続けていきたいと考えています。

2023年度の
応募総数は
1万9,052通となり、
およそ**3万8,104**人の
子どもたちに
給食を届けることが
できました

WFPチャリティーエッセイコンテスト 「未来につなぐ、思い出ごはん」

募集期間 2023年7月1日(土)～9月4日(月)



「ごはん」から「途上国の飢餓問題を考える機会に」と実施している本コンテスト。応募1作品につき給食2日分(60円)が寄付協力企業が国連WFPの学校給食支援に寄付されます。2023年は「未来につなぐ、思い出ごはん」をテーマに、未来に伝えたい「ごはん」の思い出や気持ち、心に残るエピソードを募集しました。

特別協賛：
日清食品ホールディングス株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
寄付協力：
日清食品ホールディングス株式会社
三菱商事株式会社



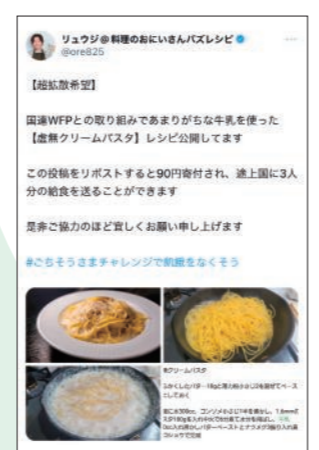
特別審査員：
ふなっしーさん
広瀬アリスさん
竹下景子さん
撮影：中川容邦
撮影：藤山紀信



「#ごちそうさまチャレンジ」を開催

2023年9月29日(金)～10月31日(火)

SNSで気軽に取り組める寄付キャンペーン「#ごちそうさまチャレンジ」は今年で2年目。ごちそうさまポーズや、食材を使い切るためのアイデアなど「食品ロス」削減にまつわる内容を「#ごちそうさまチャレンジで飢餓をなくそう」を付けてSNSに投稿すると1投稿につき150円(学校給食5人分)が寄付協力企業より国連WFPの学校給食支援に寄付されます。アンバサダーもキャンペーンを盛り上げ、寄付対象アクションは過去最高の21万1,394件、50万人の子どもたちに給食を届けることができました。



スペシャルサポーター：
株式会社クレハ
日清食品ホールディングス株式会社
明治ホールディングス株式会社
特別協賛：
ハウス食品グループ本社株式会社

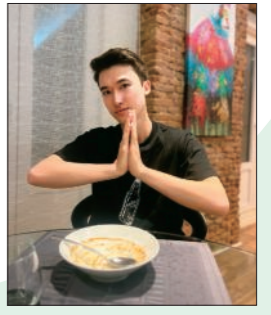
#ごちそうさまチャレンジ
をつけて
アクションを投稿するだけで
子どもたち**5**人の
学校給食支援に!



#ごちそうさまチャレンジ

国連WFP | For Zero Hunger

寄付対象アクション総数
21万1,394件
学校給食支援数
およそ**50**万人



マリウス葉さん

キャンペーンアンバサダー：
杏/EXILE USA/近藤しづか/白ごはん.com 富田ただすけ/高橋メアリージュン/はらぺこグリスリー/フォーリンデパはっしー/ふなっしー/マリウス葉/むにぐるめ/山本ゆり/リュウジ(五十音順 敬称略)

企業・団体からのご支援について



さまざまな方法を通じて、
ご支援いただいています。

ご寄付

1 商品・サービスを通じて

レッドカップキャンペーン

売り上げに応じて一定額を学校給食支援にご寄付いただくキャンペーンへのご参加 [p.25参照]



2 継続的なご支援として

国連WFPコーポレートプログラム

3年間で一定額のご寄付をいただくことで、継続的に国連WFPの活動をご支援 [p.27参照]

3 お客様とともに

募金箱やネット決済

店頭での募金箱の設置や寄付募集サイトの運営

株式会社セブン&アイ・フードシステムズ/大和ハウス工業株式会社/
日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社/株式会社ファミリーマート/
LINEヤフー株式会社/株式会社ローソン など

ポイントやカタログ

クレジットカードやポイントカードのポイントを用いたご寄付
カタログギフトで商品の代わりに寄付の選択肢を設ける方法

アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc./株式会社セブン&アイ・ホールディングス/
株式会社高島屋/三井住友カード株式会社/三菱UFJニコス株式会社/リンベル株式会社 など

物品の買い取りと換金

ご家庭に眠る本や商品券などの買い取り金額をご寄付

株式会社バリューブックス/TMコミュニケーションサービス株式会社

4 株主様とともに

株主優待制度

優待品に代わって「国連WFPへの寄付」を選択肢に設ける方法

カンロ株式会社/株式会社クラレ/新晃工業株式会社/中山福株式会社/
日清食品ホールディングス株式会社/日本ハム株式会社/日本証券業協会 など

5 社員とともに

社内イベント開催時

給与天引き、社内募金、バザー開催、社員食堂の食数からのご寄付

株式会社オリエンタルランド/株式会社中村屋/株式会社ニコン/株式会社三菱UFJ銀行 など

「WFPウォーク・ザ・ワールド」の参加や自主開催の実施

社員の社会貢献活動として、また健康経営施策として、
参加費の一部が学校給食支援になる「WFPウォーク・ザ・ワールド (p.21)」への参加、
またはウォーク・ザ・ワールド自主開催の実施

2～5は、寄付の用途を「緊急支援」「学校給食支援」「母子栄養支援」「指定なし」から選択可能であり、
企業・団体の方針に沿ってご寄付いただけます。

啓発・ チャリティ イベントへ のご支援

「WFPウォーク・ザ・ワールド (p.21)」「WFPチャリティエッセイコンテスト (p.22)」「#ごちそうさまチャレンジ (p.22)」の運営は協賛企業・団体によるご支援で実施しています。
また、「WFPチャリティエッセイコンテスト」「#ごちそうさまチャレンジ」を通じた学校給食支援へのご寄付は、寄付協力企業・団体によるご支援で実現しています。

評議員として のご支援

評議員は、評議会において、1社(者)1票の議決権を有す当協会の正会員(NPO法上の「社員」)です。年会費20万円はWFP国連世界食糧計画への支援活動を行う当協会の運営経費に充当されます。2023年12月末時点で417社・団体が加入しています。

最新の評議員企業・
団体一覧

[https://ja.wfp.org/
corporate/councillist](https://ja.wfp.org/corporate/councillist)



チャリティ グッズの販売

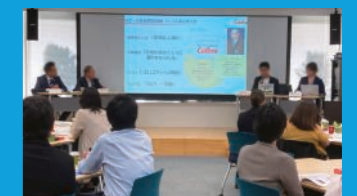
学校給食を入れる容器をモチーフとした「レッドカップ」を社員向けやお客様向けイベントで販売できます。1つ500円(税込)で、うち120円が学校給食支援に寄付され、子どもたちに4日分の給食を届けることができます。



企業のサステナビリティ推進や社会貢献活動、
社員啓発をお手伝いしています。
お気軽にご相談ください。

- 国連WFP協会による企業向けセミナー&交流会の開催
(登壇企業によるサステナビリティに関する取り組み事例紹介や参加者間で情報交換会を実施)
- 飢餓問題や国連WFPの活動を紹介する講演会
- 法人(企業・団体)主催イベントへの国連WFP協会ブースの出展
- 冊子やチラシの提供
- パネルや募金箱の貸し出し

お問い合わせはこちらから
<https://ja.wfp.org/contact>



企業向けセミナー



交流会



ブース出展

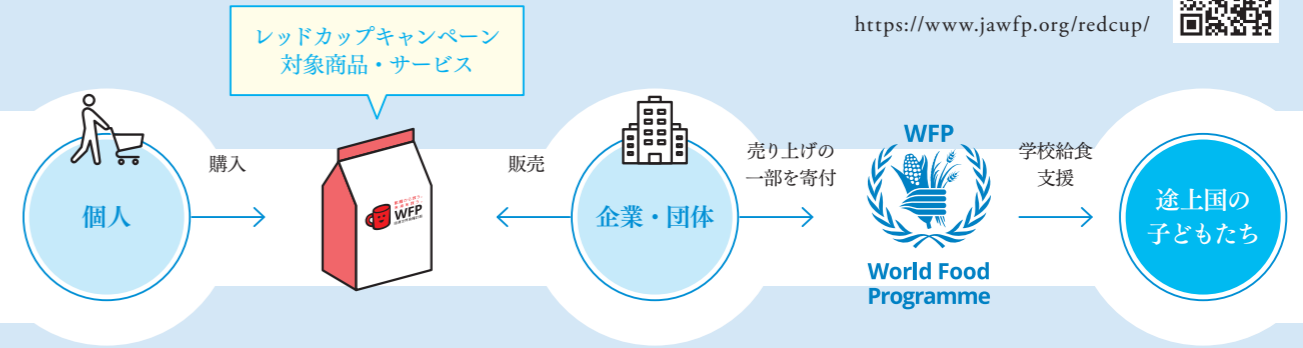
レッドカップキャンペーン 毎日のお買い物で学校給食を支援



©Mayumi Rui

国連WFPが給食を入れる容器として使っている赤いカップを目印に、「レッドカップキャンペーン」に賛同する企業・団体からキャンペーンマークのついた商品が発売されています(2023年、68社・団体が参加)。対象商品を購入すると、企業・団体から国連WFP協会を通じて売り上げの一部が寄付されます。2011年から2023年末までに約2,800万人の子どもたちに学校給食を届けました。

詳しくはこちらから
<https://www.jawfp.org/redcup/>



参加企業・団体一覧 [2024年5月時点]

食品・加工食品		株式会社 あじかん		アルファー食品 株式会社		株式会社 一栗食品		株式会社 上野忠		株式会社 MDホールディングス		株式会社 大森屋		
		株式会社 おやつカンパニー		カンロ 株式会社		キャンベルジャパン 株式会社		キューピー 株式会社		株式会社 湖池屋		株式会社 山陽ハイクリーナー		敷島製パン 株式会社
		清水食品 株式会社		昭和産業 株式会社		株式会社 真誠		株式会社 ニコン		日清ススコ 株式会社		日清食品 株式会社		日清食品冷凍 株式会社
		日清ヨーク 株式会社		株式会社 ニッポン		日本生活協同組合 連合会		株式会社 農心ジャパン		ハウス食品 グループ		株式会社 プリマム		マルイ食品 株式会社
		マルマン 株式会社		三菱食品 株式会社		三本珈琲 株式会社		株式会社 ロッテ		ロンドフードサービス 株式会社		アサヒ飲料 株式会社		
		共立食品 株式会社		こと京都 株式会社		泉南乳業 株式会社		株式会社 タカミヤ		株式会社 タナカバナナ		トップ卵 株式会社		

外食・体験		株式会社 ABC Cooking Studio		株式会社 京都ホテル		株式会社サガミホールディングス		株式会社 シーライン東京		中央フードサービス 株式会社		TOHOシネマズ 株式会社
		中谷商事株式会社 長野グランドシネマズ		株式会社 ボボラママ		株式会社 リロパケーションズ		株式会社 エアージェイ		中山福 株式会社		株式会社 日曜社
				アドベンチャーホールディングス株式会社		イトキン 株式会社		株式会社 グラム		丸真 株式会社		
		株式会社 プレードッグ		株式会社村内ファニチャーアクセス								
		株式会社 メルローズ		エスコート交通 株式会社		株式会社 河本総合防災		株式会社 サンピア		東亜道路工業 株式会社		株式会社 ブレインファーム
		名鉄観光サービス 株式会社		メディアスホールディングス 株式会社		横浜市		株式会社 ワコウ				

小売店での紹介例
イオン九州
イオン福岡店特設売り場

企業の声

TOHOシネマズ株式会社
営業本部 商品開発部
飲食商品開発室 筒井様

弊社は「GOOD MEMORIES」を基本理念に、ご来館されるお客様が良い思い出作りをできるような映画館サービスを目指し、TOHOシネマズのポップコーン販売を通じて、本キャンペーンに参加しております。ご購入することで「学校給食支援」につながり、その取り組みや仕組みを知っていただくきっかけにもなります。「ポップコーン×社会貢献」を持続可能な活動として、その輪が広がっていくよう取り組んでまいります。

国連WFPコーポレートプログラム



3年間で一定額のご寄付をいただくことで、継続的に国連WFPの活動をご支援いただけます。

参加企業・団体一覧

パートナー 3年間で1,500万円のご寄付

 株式会社カネカ	 宗教法人 松緑神道大和山	 ナガセヴィータ株式会社
 日清食品ホールディングス株式会社	 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社	 株式会社ファミリーマート

サポーター 3年間で600万円のご寄付

 伊藤忠商事株式会社	 株式会社 エレテックコーポレーション	 三共生興株式会社	 日本生活協同組合連合会
--	---	---	--

コントリビューター 3年間で300万円のご寄付

 医療法人 SIRIUS いしが在宅ケアクリニック	 伊藤忠プラスチック株式会社	 伊藤忠リーテイルリンク株式会社	 株式会社 Q'sfix
 株式会社商船三井	 株式会社フィルム	 一般財団法人 ベターホーム協会	 三菱商事株式会社

2023年に100万円以上のご寄付をいただいた企業・団体の皆様

※お客様や社員からの募金やポイント寄付を含みます。

- | | | | |
|--|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● アークシステムワークス株式会社 ● I・T・O株式会社 ● アサヒ飲料株式会社 ● アサヒグループホールディングス株式会社 ● 旭食品株式会社 ● 株式会社あじかん ● 味の素株式会社 ● アセットマネジメントOne株式会社 ● アドヴェンチャーホールディングス株式会社 ● 株式会社アドバンテスト ● アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc. ● 株式会社アルトナー ● 株式会社一榮食品 ● 井筒まい泉株式会社 ● 伊藤忠商事株式会社 ● 伊藤忠セラテック株式会社 ● 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 ● 伊藤忠プラスチックス株式会社 ● 伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社 ● 伊藤忠リーテイルリンク株式会社 ● 伊藤ハム米久ホールディングス株式会社 ● 株式会社イトヨーカ堂 ● 岩井機械工業株式会社 ● 株式会社上野忠 ● 株式会社ABC Cooking Studio ● エスコート交通株式会社 ● 株式会社NTTドコモ ● 株式会社 エレテックコーポレーション ● 大阪よどがわ市民生活協同組合 ● 株式会社大森屋 ● 株式会社オーレック ● 岡田茂吉 研究所 ● 株式会社 オフィス・カラーサイエンス ● 株式会社おやつカンパニー ● オラガネット株式会社 ● 株式会社オリエンタルランド ● 株式会社シェアジャパン ● カゴメ株式会社 ● かどや製油株式会社 ● 株式会社カネカ ● 株式会社にしき食品 ● カルビー株式会社 ● 河内屋酒販株式会社 | <ul style="list-style-type: none"> ● 株式会社河本総合防災 ● 協同組合 関東給食会 ● 関東総業株式会社 ● カンロ株式会社 ● キッコーマン株式会社 ● キャンベルジャパン株式会社 ● 株式会社Q'sfix ● キュービー株式会社 ● 共立食品株式会社 ● 株式会社クボタ ● 株式会社クラレ ● 株式会社クレハ ● 株式会社湖池屋 ● こと京都株式会社 ● 株式会社サガミホールディングス ● 三共生興株式会社 ● サントリーホールディングス株式会社 ● 株式会社サンピア ● 株式会社山陽ハイクリナー ● 株式会社シーライン東京 ● SHIONOGI 社会貢献支援会 ● ジャンボパーキング株式会社 ● 株式会社商船三井 ● 情報産業労働組合連合会 ● 宗教法人松緑神道大和山 ● 昭和産業株式会社 ● 医療法人 SIRIUS いしが在宅ケアクリニック ● 新晃工業株式会社 ● 株式会社真誠 ● 真如苑 ● 株式会社スリーケー ● 生活協同組合おおさかパルコープ ● セイコーエプソン株式会社 ● 宗教法人「生長の家」 ● 株式会社 セブン&アイ・フードシステムズ ● 株式会社 セブン&アイ・ホールディングス ● 全国農協食品株式会社 ● 株式会社センチュリー21・ジャパン 緊急支援金口 ● 泉南乳業株式会社 ● 公益財団法人全日本仏教会 ● 創価学会 ● ソニー生命保険株式会社 ● 大和証券株式会社 ● 大和ハウス工業株式会社 ● 株式会社高島屋 | <ul style="list-style-type: none"> ● 株式会社TAKイーヴァック ● 株式会社タナカバナナ ● たにもと建設株式会社 ● 中部日本放送株式会社 ● 株式会社TK ● 株式会社DINOS CORPORATION ● 特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International ● テーブルマーク株式会社 ● 天台宗 一隅を照らす運動総本部 地球救済事務局 ● 東亜道路工業株式会社 ● 東海農産株式会社 ● 東都生活協同組合 ● TOHO シネマズ株式会社 ● トップ卵株式会社 ● トヨタ自動車株式会社 ● 株式会社内藤建築事務所 ● ナガセヴィータ株式会社 ● 株式会社中村屋 ● 中山福株式会社 ● 医療法人なごみ ● 株式会社ニコン ● 株式会社ニチリン ● 株式会社ニチレイ ● 日蓮宗あんのん基金 ● 日清スシコ株式会社 ● 日清食品株式会社 ● 日清食品ホールディングス株式会社 ● 日清食品冷凍株式会社 ● 株式会社日清製粉グループ本社 ● 株式会社ニッスイ ● 日東富士製粉株式会社 ● 株式会社ニッポン ● 日本アクセス北海道株式会社 ● 日本ハム株式会社 ● 日本共産党中央委員会 ● 日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 ● 日本証券業協会 ● 日本生活協同組合連合会 ● 日本農産工業株式会社 ● 日本労働組合総連合会 ● 株式会社野口食品 ● 野村ホールディングス株式会社 ● ハウス食品グループ ● ハニューフーズ株式会社 ● 株式会社 ビジョン・コンサルティング | <ul style="list-style-type: none"> ● 株式会社ファイネット ● 株式会社ファミリーマート ● ファンケルクラシック基金 ● 株式会社フィルム ● 不二製油グループ本社株式会社 ● プリマム株式会社 ● 株式会社ブルボン ● 株式会社ブレインファーム ● 株式会社プレーリードッグ ● 一般財団法人ベターホーム協会 ● 株式会社ボラマーマ ● 公益財団法人 毎日新聞西部社会事業団 ● 公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団 ● Mastercard Japan ● マルイ食品株式会社 ● 丸真株式会社 ● マルハニチロ株式会社 ● 丸美屋食品工業株式会社 ● 三井住友カード株式会社 ● 株式会社 三井住友フィナンシャルグループ ● 三菱商事株式会社 ● 三菱食品株式会社 ● 株式会社三菱UFJ銀行 ● 株式会社三菱UFJ銀行 社会貢献基金 ● 三菱UFJニコス株式会社 ● 三本珈琲株式会社 ● 宗教法人 無二亦寺 ● 株式会社 村内ファニチャーアクセス ● 株式会社 明光ネットワークジャパン ● 明治ホールディングス株式会社 ● メディアスホールディングス株式会社 ● 有楽製菓株式会社 ● 立正佼成会 一食平和基金 ● 立正佼成会 佐倉教会 ● 株式会社リロパッケージング ● リンベル株式会社 ● 株式会社 ロイヤリティ マーケティング ● 株式会社ローソン ● 株式会社ロッテ ● ロンドフードサービス株式会社 ● 株式会社ワコウ |
|--|---|--|---|

企業の声



三共生興株式会社
本社ホールディングス部門 社長室 人事グループ 平松様

弊社は生活文化提案企業として“100年先の子どものために”、長期的視点でSDGs経営を積極的に推進しており、この度、国連WFP協会様の活動趣旨に賛同し、2023年11月よりコーポレートプログラムのサポーターとなりました。社内向け勉強会で活動内容の理解を深めるとともに、協賛させていただいたイベントへの社員と家族の参加など、社会貢献活動をより身近に感じられる機会となっています。今後も国連WFP協会様とともに、飢餓のない笑顔あふれるサステナブルな社会の実現に向けて、継続的な支援を行ってまいります。

2023年度決算報告

活動計算書

2023年1月1日から2023年12月31日まで

科目	金額(単位:円)
I 経常収益	
1 受取会費	83,523,000
2 事業収益	40,184,547
3 受取寄付金	3,211,479,077
4 その他収益	7,175,755
経常収益計	3,342,362,379
II 経常費用	
1 事業費 (1) 人件費	82,120,778
(2) その他経費	3,265,593,366
事業費計	3,347,714,144
2 管理費 (1) 人件費	15,678,972
(2) その他経費	24,092,604
管理費計	39,771,576
経常費用計	3,387,485,720
III 経常外費用	
当期経常増減額	-45,123,341
税引前当期正味財産増減額	-45,123,341
法人税、住民税および事業税	74,500
当期正味財産増減額	-45,197,841
前期繰越正味財産額	581,075,699
次期繰越正味財産額	535,877,858

※「II 経常費用 1 事業費 (2) その他経費」に寄付金支出が含まれます。

貸借対照表

2023年12月31日現在

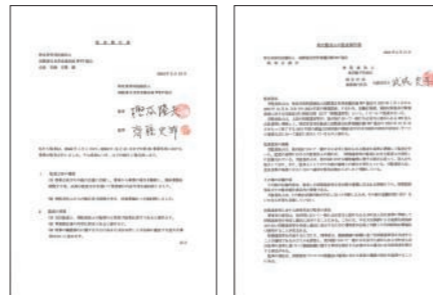
科目	金額(単位:円)
I 資産の部	
1 流動資産	現金預金 1,087,145,498
	未収金 176,619,592
	商品 1,631,720
	貯蔵品 2,014,200
	前払金 875,070
	流動資産合計 1,268,286,080
2 固定資産 (1) 有形固定資産	什器備品 1,701,073
	建物付属設備 6,806,618
	有形固定資産合計 8,507,691
(2) 無形固定資産	ソフトウェア仮勘定 3,969,900
	ソフトウェア 7,188,933
	無形固定資産合計 11,158,833
(3) 投資その他の資産	投資有価証券 57,899,500
	差入保証金 931,000
	投資その他の資産合計 58,830,500
固定資産合計	78,497,024
資産合計	1,346,783,104
II 負債の部	
1 流動負債	未払金 807,142,359
	未払法人税等 74,500
	前受金 200,000
	預り金 2,346,987
	未払消費税等 1,141,400
	流動負債合計 810,905,246
負債合計	810,905,246
III 正味財産の部	
1 流動負債	前期繰越正味財産 581,075,699
	当期正味財産増減額 -45,197,841
正味財産合計	535,877,858
負債および正味財産合計	1,346,783,104

活動における法令や指導などの遵守

国連WFP協会では飢餓問題の最新状況のご案内とご寄付のお願いを目的に、関連各所の指導・許可を受け「駅前や商業施設などでの街頭キャンペーン」を、また個人情報の保護に関する法律(個人情報保護法)を遵守し「ダイレクトメール(DM)の送付」を実施しています。より多くの方に支援の輪を広げるために、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

情報公開と監査報告

国連WFP協会は、法人の監事が内部監査を行うとともに、監査法人に依頼して外部監査を受けています。事業報告書や財務諸表および財産目録は、所轄庁である横浜市に提出され、またWebサイトにも掲載されています。



役員一覧

敬省略 五十音順 ※2024年4月1日現在

会長	安藤宏基	日清食品ホールディングス株式会社 代表取締役社長・CEO
理事	青木 創	特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画WFP協会 事務局長
理事	忍足謙朗	WFP国連世界食糧計画 元アジア地域局長
理事	折茂美保	ボストン コンサルティング グループ合同会社 マネージング・ディレクター&パートナー
理事	小谷真生子	経済キャスター
理事	小林文彦	伊藤忠商事株式会社 代表取締役 副社長執行役員 CAO
理事	今野正義	株式会社日本食糧新聞社 代表取締役会長 CEO
理事	津村康博	WFP国連世界食糧計画 日本事務所 代表
理事	橋本 徹	Y-BRIDGE 代表 元横浜市国際局長
理事	判治孝之	日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 代表取締役社長
理事	本田 亮	クリエイティブディレクター/環境マンガ家
監事	榎谷隆夫	公認会計士・税理士
監事	樽本 哲	インタース法律事務所 代表弁護士

国連WFPを応援する著名人

※2024年7月現在



杏さん

国連WFP親善大使
俳優
©Junko Tamaki (t.cube)



ŪSAさん

国連WFPサポーター
パフォーマー



竹下景子さん

国連WFP協会親善大使
俳優
撮影：篠山紀信



三浦雄一郎さん

国連WFP協会親善大使
プロスキーヤー・冒険家



広瀬アリスさん

国連WFP協会親善大使
女優
撮影：中川容邦
※2024年7月10日就任

2023年にご支援くださった著名人



柳田悠岐さん

学校給食支援
福岡ソフトバンクホークス
所属野球選手

柳田選手は自身の本塁打(ホームラン)が途上国の子どもたちの学校給食支援につながる成績連動型寄付に2019年から取り組んでいます。2023年は計23本のホームランを打ち、11万5,000人分の給食につながりました。また2019年からの5年間で60万人の子どもたちを支援してくださいました。

年次報告書のWeb版・バックナンバーおよび決算報告の詳細につきましては当協会のWebサイトにてご覧いただけます。

<https://ja.wfp.org/jawfp-annual-report>





© WFP/Hamadullah Muzamir



© WFP/Abdul Karim Calais Calais



© WFP/Candice Muenzer



© WFP/Abdul Karim Calais Calais




SNSでも情報を配信しています。

 国連WFP協会

 @WFP_JP

 @WFP.JP

 wfp_japanoffice / jawfp_official

 国連WFP



今後の年次報告書内容の充実のためアンケートを実施します。左記の二次元バーコードからアンケートにお答えいただき、率直なご意見・ご要望・ご感想をお聞かせください。

※アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として公表されることはありません。

国連WFP協会

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい1-1-1 パシフィコ横浜6F

☎ 0120-496-819 受付時間 9:00~18:00 (通話料無料・年始を除く年中無休)



<https://ja.wfp.org/>

